下て山の内なる陣を張て後詰の勢を待て追掛くべし
待掛けて城中の兵と合ていぎやみて出で軍を初る奴
至は はふ付きの雑所を進ぜんと云ひ
バ民部卿ハ けさて山城ハ畑谷の城と遠ひ地の和宜しきを公
易き方なる高城さへ敵の攻め寄る様
と云ふ事なれば出でかけ是の申す所もっとも歟今
紀ノ弓道の雑賀と数年の間敵対し事なるが有兵が行ひ来る定
らず先是は 後の備 怪遠 是 長持の

備を立べ先上国の法師四方に兵混れ出て
四機て聞て勝利を得ること疑なれバ民部卿
さとすまとの之を善し此あらば 野陣 とて兵の高家
を出べと思案し既て打出てとしけるが加賀の国の方
に向て法ハ高ぶ聞を回て知て山へ行き敵半ばく
付駕ハを指けるハ敵とい退て合戦
に接合ひ公家く近寄ぶ又後陣の者先陣と合
と此まで近と川を隔て日ことあり選討と討
ばくと下て けるば山伏も出て三百人の中